

科目名	デザイン総合研究 I						
授業コード	3420	授業科目名	デザイン総合研究 I			担当者	上原幸子教授、河野奈保子講師、風間純一郎講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『自分を可視化する』
デザインを学ぶ者にとって、アイデアを生み出していく過程で、自分が持っている引き出しの確認作業が必要になることが少なくない。自分の発想がどこからくるのか、自分は何に興味関心があるのか、今後何をしたいのか、その理由と展望について、自分の視点を確認できる情報ソースとして、周辺情報の整理と可視化を試みる。

【課題の概要】

○通信授業課題『マイデータグラフィックス』
自分を客観視することを目的に、自分年表を用いて自分のこれまでをビジュアライズした情報ツールを制作する。
それらは、自分を取り巻く社会環境を、時間軸と関係軸で表すデータグラフィックスである。

【授業計画】

- ①自分情報を表にまとめる
たくさんの情報を整理するには、テキスト化する作業は欠かせない。まずひたすら書き出して検証していくことから見えてくるもの、導き出したい方向性を確認していくステップとして資料を作成する。
- ②手描きによるビジュアル自分年表の作成
自分を取り巻くさまざまな社会環境を俯瞰しながら、時間軸を用いて記憶の中にある自分情報を可視化する作業を行う。個人の記憶として切り取られた情報だからこそ、手描きでしか再現することはできない。自分の頭の中にある引き出しを整理し、テーマやタイトルをつけることで自分を確認できるツールを作成する。文字だけではなく、図やアイコンを用いて、シーンや考えなどをビジュアライズすることで、誰でも見やすくわかりやすい年表となることを体験する。情報を簡単な絵で書き留めておく「グラフィックレコーディング」のスキルを学ぶ機会としたい。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
1 年次～
- 履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備 考
なし

【教材等】

- 教科書
渡邊俊博著『考えを整理する・伝える技術 グラフィックレコード』（フォレスト出版 2019年）
- 学習指導書
『デザイン総合研究 I 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

- 参考文献
石黒謙吾著『分類脳で地アタマが良くなる 頭の中にタンスの引き出しを作りましょう』（KADOKAWA／角川マガジンス 2015年）

科目名	デザイン総合研究 II						
授業コード	3430	授業科目名	デザイン総合研究 II			担当者	清水恒平教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

「図化考察―思考の図化トレーニング」

デザインにおいては、あらゆる情報や関係性を分析・調査して、分かりやすい形にまとめる（編集する）力が求められる。この科目では、複雑な事象を図にすることによって整理する方法を学ぶ。すべての課題は紙と鉛筆を使用して行う。手を動かしながら頭を整理するための、思考の基本パターンのトレーニングを行います。

【課題の概要】

○メディア授業課題

バブルマップ／ダブルバブルマップ／フローマップ／マルチフローマップなどの基本パターンを使用した20の小課題を行う。

メディア授業課題の提出条件：
今年度に公開されている本科目の全講義動画を視聴済みであること

【授業計画】

○メディア授業

課題制作のための説明動画の視聴→課題制作→解説動画の視聴を基本のセットとして、合計20の課題を行う。
提出は最後にまとめてPDFファイルにして Web 提出する。
課題を行う際に使用するフォーマットのダウンロードやプリントアウト、提出の際のスキニングやPDF化については講義動画の中で説明する。

【成績評価の方法】

メディア授業の中で制作した作品（PDFにて提出）の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考

- ・デザイン情報学科デザイン総合コース必修科目。
- ・インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。

具体的な必要要件は以下の通り。

- ・PDFファイルが閲覧できること。
- ・スキャンができること。
- ・スキャンデータをまとめたPDFファイルへの変換ができること。
- ・Web提出ができること。

・推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	デザイン総合研究Ⅲ						
授業コード	3440	授業科目名	デザイン総合研究Ⅲ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、竹中義明講師、奥村梨枝子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

印象の造形化

本授業では、情報の収集と分析に裏付けられた形の創出を行います。
私達が学ぶキャンパス空間は、過去、現在、未来における多くの生徒達の学びの場として、形を変えながら構築されてきました。様々な特徴、要素、人々、そして時間が折り重なり、その空間が存在しています。
本授業ではキャンパスの調査を通してその形に触れ、空間の息づかいを感じることから始めます。普段なにげなく感じている印象を読み解き、イメージを育て、他者に伝わる表現に定着することを通じて、デザインの原初的な生成のプロセスを学ぶことが目的です。

【課題の概要】

キャンパスの調査（デザインサーヴェイ）を通して、空間やそこを行き交う人々の実態を客観的に読み取り、その成果をもとに造形表現に結びつけることを試みます。チェックシートを作成し、担当教員との話し合いを通して作品へ定着させます。

【授業計画】

〔面接授業4日間〕
前半
第 1 日 前提講義・課題説明
現地調査・ワークショップ
第 2 日 現地調査・ワークショップ
作品制作

後半
第 3 日 作品制作
第 4 日 作品制作
発表、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
2 年次～
- 履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ・Ⅱ」の単位修得または同時履修。

【教材等】

なし

【その他】

- ・学外実習あり(現地調査とワークショップ)
- ・キャンパスの調査ではスマートフォンのカメラを使用します。プリントアウトにあたり、Androidユーザはデータを移動するためのUSBメモリ(Type-AもしくはC)を各自用意ください。デジタルカメラの使用も可能です。

- ・制作に必要な素材や、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
- ・検討に必要であれば、自らのノートPCやタブレット類の持ち込みを可とします。

科目名	デザイン総合研究Ⅳ						
授業コード	3450	授業科目名	デザイン総合研究Ⅳ			担当者	上原幸子教授、福井政弘教授、棚橋早苗講師、藪内新太講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

○授業テーマ「メディアを考える／メディアで遊ぶ」
 私たちのコミュニケーションを成り立たせている多様なメディアとメディア環境を広く捉え直し、新たなメディアの思考と実践へと繋げることを目標とする。たとえば、メディアを取り巻く環境としては、社会体制・経済・産業・科学・技術・歴史・文化・思想・教育等があり、これらは相互に関係し合いながら、総体としてのメディア環境を形づくっていると考えられる。フィールドワークを通して現在のメディア環境を広く考察し、自らの手で実践的に新たなメディアの制作と提案を試みる。

【課題の概要】

○面接授業課題「メディアの発明」
 「メディアで遊ぶ」をキーワードに、ワーキンググループで身近な環境のフィールドワークを行いながら、メディアとメディア環境の多様性と可能性を多角的に観察、考察する。授業の共通テーマは「水」とし、「鷹の台キャンパス周辺・玉川上水」を考察のフィールドとする。フィールドワークをもとに、個人制作で「新たなメディア」のプロトタイプを試作し、プレゼンテーションでは「メディアで遊ぶ」の実践と提案を試みる。

【授業計画】

○面接授業「メディアの発明」

具体的な授業進行については、授業初日にオリエンテーションを行う。
 ・1日目：オリエンテーション、ミニワークショップ、フィールドワーク、グループディスカッション
 ・2日目：フィールドワーク、個人制作
 ・中間期間：オンラインプラスによる指導
 ・3日目：個人制作、仕上げ、プレゼンテーションの準備
 ・4日目：プレゼンテーション、講評、ふりかえり

※オンラインプラス〔中間〕ー オンライン上で制作中の課題に対して中間アドバイスをを行う。

【成績評価の方法】

制作した作品と提案内容、プレゼンテーションを評価の基本とし、制作過程や出席状況も評価の対象とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 2 年次～
 ○履修条件
 デザイン総合コースに在籍していること。
 「デザイン総合研究Ⅰ～Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修すること。

○備考
 オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合、インターネットに接続できる環境、Facebookのアカウントが必要となる。

【教材等】

なし

【その他】

○面接授業課題「メディアの発明」
 授業前半にワーキンググループ（5名程度）で、玉川上水周辺のフィールドワーク（学外見学）およびディスカッションを行う。

○参考文献

Works That Work編集部『名前のないデザイナー－世界の日常と社会を動かす思いがけないデザインの話』（グラフィック社 2020年）

科目名	デザイン総合研究 V						
授業コード	3460	授業科目名	デザイン総合研究 V			担当者	清水恒平教授、望月重太郎講師、濱田織人講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

インターネット、そしてスマートフォンが契機となった「テクノロジーの民主化」により、プロアマ問わずに誰しものが表現者や開発者になることができる状況にある。専門知識がなくともアプリやWebサイト、グラフィックの開発などは様々なソフトウェア／サービスの補助により可能になり、YouTubeやBehanceのようなクラウドサービスを使うことで自身の持つクリエイティビティをオープンに、また表現者同士が距離や国籍、年齢や性別の制約を外れて繋がり合えるようになってきている。

その上でデザインの観点から改めて本科目を見つめたときに、我々がデザインを用いてどのように社会と向き合うのか？を問い（「なぜ＝Why」）、その問いから導出される新しい価値はどういったものか？を発見し（「何を＝What」）、それを実現するための最適な手法はどれか？を選択していく（「どうやって＝How」）一連のプロセスを通じて、デザイナーとして大切な「手法（How）にとらわれないクリエイション」について触れ、社会にとってサステナブルなアイデアとアウトプットを導き出すことを目標とする。

本科目は全日を通じオンラインのみで行う。各自が自由に、各々のクリエイティビティを発揮できる場所から参加して欲しい（ただし、カフェや公共空間など、雑音の多い場所は避け、参加者同士が静かに集中できる環境が望ましい）。遠く離れた参加者同士が、今の通信環境と制作環境を用いながら、一つの目的に向かってアウトプットを構築していく試みである。

【課題の概要】

○メディア授業課題

「社会にも経済にもサステナブルなアイデアをデザインする」

テーマに基づき、「なぜ＝Why」「何を＝What」「どうやって＝How」の流れに沿ってアイデアを考え、アウトプットを導きだしていく。グループワークにて進行し、最終日にプレゼンテーションを行う。

デザイン活動を行う中で「サステナブル」は大きなキーワードである。つくる、という行為は同時に「すてられるものをつくる」行為とも言える。そこを意識し、無為に消費されるだけではない循環するモデルについて改めて問い直していく。ただし、経済活動と連動しないアイデアは多くの場合において継続せず、どれだけ良いアイデアでも社会には定着しない。社会にも、環境にも、人にも、そして経済的にもサステナブルとなるアイデア（総じて「サーキュラーエコノミー」と呼ばれることもある）とは何か？に向き合い、具体的なアイデアを構築することを目的とする。

授業内では、Web会議システム「Zoom」を使用して進行し、同時にメッセージ共有ツール「Slack」を用いて各参加者や事務局とのやり取りを行う。またオンラインホワイトボードシステム「miro」や、企画書作成クラウドツール「Googleスライド」を用いてアイデアを具体化する。よって、受講者自身のパソコン上でこれらのツールを使う前提の元、各ツールがどのようなものか？を科目参加前に各自で把握した上で授業を進めることとする。

【授業計画】

○メディア授業

- 第1日：オリエンテーション、企画検討
- 第2日：企画検討、企画案発表
- 第3日：アイデアの具体化、プレゼンテーション準備
- 第4日：アイデアの具体化、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション、総評
- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
 - ・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
 - ・開講予定については「面接授業（スクーリング）日程表・メディア授業［リアルタイム］日程表」を参照すること。
 - ・4日間全ての出席が必要。

【成績評価の方法】

メディア授業[リアルタイム]の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

「デザイン総合研究Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修すること。

○備考

- ・Web会議システム「Zoom」が使えること
- ・メッセージ共有ツール「Slack」、オンラインホワイトボードシステム「miro」、企画書作成クラウドツール「Googleスライド」について事前に把握し、自身の作業環境で扱えることを確認した上で授業に臨むこと
- ・授業でも触れていくが、事前に「サステイナブル」や「サーキュラーエコノミー」について調べておくことが望ましい
- ・「コンピュータリテラシーⅠ」程度の知識は有していること。授業内でコンピューターの基本操作(テキスト入力やマウス操作など)の説明は行わない。
- ・操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
- ・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
- ・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。最新バージョンを使用すること。

【教材等】

なし

【その他】

○メディア授業[リアルタイム]について：グループディスカッションを行う。

科目名	デザイン総合研究 VI						
授業コード	3470	授業科目名	デザイン総合研究 VI			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、福井政弘教授、荻原剛教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）						

【授業の概要と目標】

デザイン総合コースでは、情報形成デザイン・環境形成デザイン・社会形成デザインの3つの科目群を、専門的にあるいは横断的に学びながら、一方では「デザイン総合研究Ⅰ～Ⅴ」において、総合的な視点から、モノやコトの本質を捉え直し、デザインの可能性を実験的に拡張して行くことになる。「デザイン総合研究Ⅵ」では、最終科目である「卒業制作」に向けて、自分はどのような領域に興味があるのか、また知識や技術を複合的に捉えながら、それらを柔軟に拡張し、自分が考えるテーマとして昇華させることを目指している。

【課題の概要】

- 通信授業課題1　ことばを解体する　"モノやコトを自分の言葉で分析する"
- 通信授業課題2　かたちで構築する　"分析したことばをかたちにする"

【授業計画】

- 通信授業
 - 〔課題1〕「ゆるい」「やさしい」「こまる」「ここちいい」「こわい」「あいだ」「たまる」「つなぐ」の中から1つの言葉を選び、その意味や概念を分解して図化したPDFをWeb提出する。また同時に発想した新たな価値観や疑問、概念などをテーマの種としてまとめる。
 - 〔課題2〕課題1で発見した仮説やテーマの種を視覚化／具体化し、ドキュメントとしてPDFにまとめ提出する。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
3年次～
- 履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ～Ⅴ」の単位を修得しているか、同時に履修すること。

【教材等】

- 教科書
ウンベルト・マトゥラーナ／フランシスコ・バレーラ（著）『知恵の樹　生きている世界はどのようにして生まれるのか』（筑摩書房　1997年）
- 学習指導書
『デザイン総合研究Ⅵ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	3480	授業科目名	卒業制作			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、福井政弘教授、荻原剛教授
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン情報学科デザイン総合コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

これまでにデザイン総合コースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。学生とは電子メール・Web上のコミュニケーションツール・面接指導などを用いて意見の交換や助言、情報提供を行う。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作することが期待される。

【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

＊課題については、学習指導書『卒業制作 2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○面接授業
 各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。
 ※オンラインプラス〔準備〕— Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談
 面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。
 ※オンラインプラス〔中間〕— Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス
 制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

○通信授業
 テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作提出作品、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 4年次

○履修条件
 以下のすべての条件を満たすこと。
 ・デザイン情報学科デザイン総合コースに在籍していること。
 ・デザイン情報学科デザイン総合コース必修科目の単位修得または同時に履修登録すること。

○備考

- ・デザイン情報学科デザイン総合コース4年次必修科目
- ・オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。
- ・5月頃にWEBキャンパス「学生メニュー」のネットフォーラム上にオンラインプラス実施に関する情報を発信する。5月にはネットフォーラムを確認すること。

【教材等】

○教科書
なし

○学習指導書
『卒業制作 2024年度（デザイン情報学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

卒業制作展で発表し、講評を行う。
面接授業について：グループワークを行う。

科目名	情報形成デザイン I A						
授業コード	3490	授業科目名	情報形成デザイン I A			担当者	福井政弘教授、木多美紀子講師、上田和秀講師、山口弘毅講師、和田明広講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『写真で意味を伝える』
写真は視覚言語と言われるように、言葉と同じように概念を伝えることができる。それゆえ、自分と他者の視覚的な意味の共有化は、ビジュアル・コミュニケーションの前提となる。また写真を言葉を使わないメッセージとして捉え、ビジュアルな表現だけを使って、他者にメッセージを伝えることを学ぶ。それらは、言語の領域を越え国際的なコミュニケーションへのステップとしてあらゆる人々に共通の理解を求めるグラフィックデザインの基礎と言える。

【課題の概要】

- 課題 1 「ビジュアル・カルタ」
1-1 50音で始まるキーワードを44個考え、45×60mmの写真でそれぞれのキーワードを撮影する。44枚の写真を台紙に貼り提出する。
1-2 一つのキーワードを5枚の写真で表わし、構成する。

- 課題 2 「ビジュアル・オピニオン」
日常生活や社会問題に対する意見を言葉を使わずに、視覚的な表現だけを使いたく他者に伝える。

【授業計画】

- 課題 1 「ビジュアル・カルタ」
- 教科書を読み前提学習をする。
 - 学習指導書を読み課題を理解する。
 - 課題 1-1 を制作する。
 - 課題 1-2 を制作する。
 - 課題 1 を提出する。
 - 返送された添削文を読んで理解する。

- 課題 2 「ビジュアル・オピニオン」
- 教科書を読み前提学習をする。
 - 学習指導書を読み課題を理解する。
 - ラフスケッチを制作し提出する。
 - 添削指導に基づいて本制作し提出する。
 - 返送された添削文を読んで理解する。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
2年次～

- 履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

- 備考
「デザイン基礎 I A・B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書

白尾隆太郎監修『graphic elements グラフィックデザインの基礎課題』（武蔵野美術大学出版局 2015年）

○学習指導書

『情報形成デザインⅠA・ⅡA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名		情報形成デザイン I B					
授業コード	3500	授業科目名	情報形成デザイン I B			担当者	福井政弘教授 師、木多美紀 子講師、高崎 葉子講師、上 田和秀講師、 野呂麻美講 師、和田明広 講師、中村孝 太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『タイポグラフィとダイアグラム』

文字を組むことは、意味に形を与えることでもある。文字組すなわちタイポグラフィにおける視覚的側面を考察しながら、言葉と視覚表現の関係を考える。グラフィックデザインにおける紙面のレイアウトは、デザインの構造を決める重要な要素と言える。その骨格となる文字組の原理を理解し、デザインを構造的に構想できる力を養う。

【課題の概要】

○面接授業課題 1 「文字組」

あたえられた文章にタイトルを付け、コンピュータを使って組版、文字組として完成させる。

○面接授業課題 2 「ダイアグラム」

俳人小林一茶の歴史や生様を資料をもとにデザインする。

【授業計画】

○課題 1 「文字組」

オンラインプラス〔準備〕で前提講義を自宅で視聴する。

- ・「組版 1 ーいろはの文字」「組版 2 ー銀河鉄道の夜」「組版 3 ー天声人語」という3つの組版に取り組む。
- ・講評会

○課題 2 「ダイアグラム」

オンラインプラス〔準備〕で前提講義を自宅で視聴する。

- ・事前に考えてきた計画について教員と面談する。
- ・資料を調べる。
- ・コンピュータを使ってダイアグラムを制作する。
- ・講評会

※オンラインプラス〔準備〕ー事前説明動画配信

Webキャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2 年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

○備 考

「デジタル造形基礎 I ・ II」「デザイン基礎 I A ・ B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン II A						
授業コード	3510	授業科目名	情報形成デザイン II A			担当者	清水恒平教授、植木基博講師、小川修一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出）						

【授業の概要と目標】

「データビジュアライゼーション入門Ⅰ」
大量のデータを扱ったデータビジュアライゼーションの制作手法の習得を目指し、その基礎を学習する。
プログラミング言語はProcessingの使用を推奨する。

【課題の概要】

- 課題 1 オープンデータ、APIによる外部データの取得方法の調査
- 課題 2 外部データを利用した情報表現

課題 1 では私たち個人が使用できるデータにはどんなものがあるのかりサーチを行う。
課題 2 ではそれらのデータを使い新しい価値を見いだせるような作品を制作する。

【授業計画】

学習指導書『情報形成デザインⅠA・ⅡA 2024年度』に沿って通信課題を制作し提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
2 年次～

- 履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

- 備 考
教科書は「デザイン基礎ⅡA」と同じものを使用する。この教科書の第8章までの内容は習得済みであることを前提のため、その内容を理解していないものは第1章から第8章を熟読し、十分に理解した上で受講すること。

【教材等】

- 教科書
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』（オライリージャパン 2011年）
- 学習指導書
『情報形成デザインⅠA・ⅡA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン II B						
授業コード	3520	授業科目名	情報形成デザイン II B			担当者	清水恒平教授、植木基博講師、小川修一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

「データビジュアライゼーション入門2」
大量のデータを扱ったデータビジュアライゼーションの制作手法の習得を目指し、その基礎を学習する。
プログラミング言語はProcessingを使用する。また、データベースはSQLiteを使用する。

【課題の概要】

【課題】 データベース（SQLite）を利用したビジュアライゼーション

【授業計画】

- メディア授業
- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
 - ・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
 - ・開講予定については「面接授業[スクーリング]日程表 メディア授業[リアルタイム]日程表」を参照すること。
 - ・4日間全ての出席が必要。

- （前半2日間）
- ・UNIXコマンドの基礎
 - ・SQLコマンドの基礎
 - ・課題の説明

- （オンラインプラス中間）
- ・課題の計画書を提出

- （後半2日間）
- ・課題の制作

※オンラインプラス［中間］－slack上での中間アドバイス

【成績評価の方法】

メディア授業[リアルタイム]の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
2 年次～

- 履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

- 備 考
- ・インターネット接続環境があり、PC及びタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続できること。
 - ・「デザイン基礎 II A」で学習する程度の（Processingの）プログラミング技法を身に付けていること。
- 具体的にはsetup関数とdraw関数の役割の違い、変数、if条件文、forループ文などがある程度理解していることを前提としている。
- ・知識を満たしていないと思う者は「デザイン基礎 II A」「デザイン基礎 II B」から受講すること。
 - ・「コンピュータリテラシー I」程度の知識は有していること。授業内でコンピュータの基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
 - ・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
 - ・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。

い。最新バージョンを使用すること。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献

Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』（オライリージャパン 2011年）

○メディア授業[リアルタイム]について：グループワークを行う。

科目名	環境形成デザイン I A						
授業コード	3580	授業科目名	環境形成デザイン I A			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、森史子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

機能と造形

環境形成デザインIAでは、我々が暮らす環境を構成する「立体」と「空間」の実態を観察・考察します。課題制作を通して普段からなにげなく目にしているモノや空間をあらためて捉え直し考えることで、思考の幅を広げ、身の回りを形成する「環境」の理解を深めることを目標としています（観察・考察する対象は、以前より興味を持っていながらも訪問したことのないモノや空間を新たに訪ねてみても構いません）。

【課題の概要】

生活者の視点に立って、モノと空間をそれぞれに考察し、その成果をレポートにまとめて報告する。

○通信授業課題1

道具と機能の関係を考察し、その結果をスケッチとレポートでまとめ、評価し、提出する。

○通信授業課題2

身近な空間（あるいは興味のある空間）を選び、その実態を調査しレポートにまとめ、評価し、提出する。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』『ドローイング・モデリング』及び、学習指導書『環境形成デザインIA・IIA（2024年度）』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2 年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書

牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』(武蔵野美術大学出版局 2021 年)
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』(武蔵野美術大学出版局 2002 年)

○学習指導書

『環境形成デザインIA・IIA 2024 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年)

【その他】

なし

科目名	環境形成デザイン I B						
授業コード	3590	授業科目名	環境形成デザイン I B			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、森史子講師、相野谷威雄講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

機能と造形 / つくって考える

環境形成デザインIBでは、身近なプロダクトの創出を通じてコンセプトの立案から実際に機能する試作品（プロトタイプ）の作成を行います。コンセプトとして構想したものが狙い通りに出来上がることはあまり無く、大抵は1つめより2つめ、3つめのほうがより良くできるものです。本課題では、作っては試し、試したことから学ぶことを繰り返すことで、より高い創造性に結びつけるプロセスを体感的に学ぶことを目標とします。

【課題の概要】

機器に求められる機能、造形的な美しさ、つかいやすさ、制作の前提となるテーマ等のコンセプトを立案する。モノづくりの楽しさと基本プロセスを、具体的なモデル制作（プロトタイプ）を通して体験する。

- ・「はこぶ」という具体的な体験を通して、機器デザインに必要な条件を抽出し、造形の美しさとの調和を図りながら「はこぶ器」を提案する。
- ・はこぶモノ、はこぶ人、はこぶ状況など、シーン(場面)によって、はこぶ造形は変わる。「水」を「はこぶ」という行動からどのような造形が提案できるか。具体的なシーンを想定し、はこぶ造形を考える。
- ・どのようにしたらより安定させて、より遠く、より早く、楽しく、はこぶことができるか。いろいろな方法を試しながら精度を高めていく。

【授業計画】

[面接授業4日間]

前半

第 1 日 前提講義・課題説明、シーン設定
スケッチ・ラフモデル制作

第 2 日 スケッチ・ラフモデル制作

後半

第 3 日 ファイナルモデル制作・デザイン検討
ファイナルモデル制作・検証

第 4 日 プレゼンテーション準備 プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

- ・面接授業の作業に際し、濡れても構わない服装を考慮すること。
- ・課題作成にあたってはビニールシート素材とダンボールを使用します。これらの加工に必要なカッター、はさみ、接着剤、定規、コンパス等の道具類は可能な限り自ら用意するようにしてください。

○参考文献

科目名	環境形成デザインⅡA						
授業コード	3600	授業科目名	環境形成デザインⅡA			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、山本博一講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

環境形成デザインⅡの授業では、屋外に存在するモノや空間と人々の生活がどのように関わりをもつのか、ヒトとモノの関わりから発生するコトとその周囲を含めて「シーン」と捉え、現状の観察から想像し提案に至るまでのプロセスを体験的に学ぶ。

通信授業環境形成デザインⅡAでは、自分らしい発想と新たな価値創出の源泉となる自分自身の「感じ方、読み解き方」を鍛えていくことが目的となっている。そのために、自分という「ヒト」が関わる屋外にある施設とその「周囲」との関係性について観察・想像・検証する課題が設定されており、自分を主体においたデザインサーベイ（調査）に取り組む。五感だけでなく直感なども活かして、場がつくられている要素を読み解いていく力を養うことが主たる課題の目標となっている。

【課題の概要】

- 通信授業課題1
- 調査の姿勢や表示方法などを自身の作品に取り入れることを前提に、指定された図書を読む。身近な屋外の「腰掛けるモノ」とその周囲を対象にデザインサーベイ（調査）をおこない、調査結果をレポートとしてまとめる。
- 通信授業課題2
- 近隣の「バス停」を見学し、そのバス停で見学时以外の時間帯にどのようなシーンが発生するのか予測してレポートとしてまとめる。その後、想定した時間帯の予測したシーンの検証を目的にデザインサーベイをおこない、その結果をまとめる。

【授業計画】

学習指導書『環境形成デザインⅠA・ⅡA 2024年度』をよく読み、学習指導書の指示に従って課題に取り組んで提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
- 2年次～
- 履修条件
- デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

- 学習指導書
- 『環境形成デザインⅠA・ⅡA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名		環境形成デザイン II B					
授業コード	3610	授業科目名	環境形成デザイン II B			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、山本博一講師、朝比奈ゆり講師、永井賢講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

環境形成デザインⅡの授業では、屋外に存在するモノや空間と人々の生活がどのように関わりをもつのか、ヒトとモノの関わりから発生するコトとその周囲を含めて「シーン」と捉え、現状の観察から提案に至るまでのプロセスを体験的に学ぶ。

面接授業環境形成デザインⅡBでは、自分自身の「感じ方、読み解き方」を鍛え、共感性ある「自分らしい提案」の力を醸成することが目的となっている。

課題では、屋外の生活の場となるミニパークを対象に机上調査、デザインサーベイ（調査）をおこない、調査から得たことと自身の記憶を背景とした場に相応しい「シーン」の提案をおこなう。本制作では、「シーン」創出のために、「腰掛けるモノ」や水場の造作、植栽などについて空間デザインを考える。自分自身の記憶や感覚を活かした提案に向けた実践と、他者と比較しながら制作する共感性の高い提案が目標となる。

【課題の概要】

指定されたミニパークをデザインサーベイ（調査）し、自身の同質空間での記憶や存在するデータも参考に場を読み解き、共感性あるデザインを提案する。

【授業計画】

- 前半
- 第 1 日 前提講義、課題説明、グループによるミニパークの調査
第 2 日 取り組みのテーマ、デザイン構想の作成、中間発表
- 後半
- 第 3 日 取り組みテーマをもとにデザイン提案に対する制作
第 4 日 取り組みテーマをもとにデザイン提案に対する制作、発表、講評会

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
- 2 年次～
- 履修条件
- デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

調査はグループワークの予定、学外実習等をおこなう場合がある。

科目名		社会形成デザイン I A					
授業コード	3670	授業科目名	社会形成デザイン I A			担当者	上原幸子教授、山田翔太講師、江澤勇介講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

目の前にあるのに見えていないこと、見えているのに気づかないことなど、身近にある宝を再発見し、気づくことの大切さを学ぶ。自分では気づきにくいことに光を当てるためには、まず気づいていないと認識することがスタートとなる。自分周辺の第一次情報の貴重さを、可視化をとおして実感し、ソーシャルデザインが目指すべき方向性と自らの足掛かりを見つけることが、この科目の大きな目標である。

【課題の概要】

○課題1 わたしの生態環境マップ
自分を1個の生態と捉え、その周辺環境を見つめ直す装置として、他者との対話を元にビジュアルマップづくりを行う。

○課題2 ソーシャルレンズ
「選択」のメディアである写真の特性を生かし、体験的に集められ切り取られる視覚情報を編集することをとおして、日常の中にあるまちの再発見を目指す。

【授業計画】

○課題1 わたしの生態環境マップ
自分を取り巻く環境を俯瞰できるビジュアルマップを作成する。
日常何気なく過ごしているフィールドを可視化する装置づくりをとおして、見えていなかったことの掘り起こしと気づきの重要性を体験する。
制作のプロセスで、他者とのディスカッションを行い、ビジュアルレポートとしてレイアウトしてまとめる。

○課題2 ソーシャルレンズ
「見る・観る・視る」という3つの違いを、組み写真として編集し可視化する。
[課題1]のビジュアルマップに盛り込まれた地域情報から、まちの特色、地形、歴史、人々の生活、文化、時間の経過によって変化したもの・しないもの、地域の大事にしていること、発見したことなど、関心事を抽出しテーマを導き出す。
まち探検をして取材を試みるのもひとつの手段。
※課題に取り掛かる前に教科書を熟読すること。
※課題内容については学習指導書『社会形成デザイン I A 2024年度』を必ず参照すること。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
・初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎 I」を先に受講することが望ましい。
・MacintoshまたはWindowsで、編集作業が可能なソフトウェア（PowerPoint、Word、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorなどいずれか）を使用する。
・レイアウトはWebキャンパスのネットフォーラムから文字組データをダウンロードして作成する。

【教材等】

○教科書
『地元を再発見する！手書き地図のつくり方』（手書き地図推進委員会編著 株式会社学芸出版社 2019年）

○学習指導書

『社会形成デザインIA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○参考文献

- ・トーマス・S・マラニー他『リサーチのはじめかた-「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』（筑摩書房 2023）
- ・乾久美子+東京藝術大学 乾久美子研究室 編著『小さな風景からの学び～さまざまなサービスの表情』（TOTO出版 2014年）

科目名	社会形成デザイン I B						
授業コード	3680	授業科目名	社会形成デザイン I B			担当者	上原幸子教授、堀田陽子講師、河野奈保子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ソーシャルデザインのリテラシーとして、人ごとではなく自分ごととしての意識の獲得を前提としたい。そのために、自分が大事にしたいこととは何か、改めて自分発という発信感覚を養うことを目指す。デザイン思考+想いをカタチにするビジョンを組み立て、人に届く言葉や共感を生むために必要な制作プロセスを体験する。

【課題の概要】

○面接授業課題 「マイビジョン物語」

眠っている自分の意識を掘り起こし、大切にしていることやこだわりなどをストーリーで伝えるマイCM企画制作を行う。解説するのではなく、背景、動機、必要性などを元に、説得力あるストーリーと構成、演出とは何かを考え制作する。メディア制作をとおして考えや想いを伝え、また観客として観る相互体験により、他者へのまなざしと他者からのまなざしをあらためて認識する。

【授業計画】

○面接授業

（事前）

Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて事前リサーチの解説

（前半）

グループワーク

- ・偏愛マップ、Beの肩書きワークショップ

個人ワーク

- ・スキルサポートレクチャー：物語化、編集軸と構成
- ・タイトル、タグライン、ステイトメントシートを制作
- ・「マイビジョン物語」のシナリオ、絵コンテ制作
- ・中間発表

（中間）

Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作素材の解説

（後半）

個人ワーク

- ・スキルサポートレクチャー：PC操作、編集、演出効果
- ・動画、スライドショー、8コマ漫画、紙芝居など画面展開のあるメディアの企画制作
- ・プレゼンと閲覧

※受講に際しては持参物の確認をすること。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2 年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

○備 考

- ・初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎 I」を先に受講することが望ましい。

- ・スクーリングではMacintoshを使用する。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献

- ・兼松佳宏著『beの肩書き 「人生の肩書き」は、プレゼントしよう』（NPOグリーンズ 2018年）
- ・山田ズーニー著『おとなの小論文教室。』（河出文庫 2006年）
- ・ジェームスW.ヤング著『アイデアのつくり方』（CCCメディアハウス 1988年）
- ・高崎卓馬著『表現の技術』（中公文庫 2018年）

○面接授業について：グループディスカッション・発表を行う。

科目名	情報形成デザインⅢA						
授業コード	3530	授業科目名	情報形成デザインⅢA			担当者	福井政弘教授、山口弘毅講師、中村孝太郎講師
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『私の博物誌 A to Z』
ここで言う編集とは、文章や素材をいかにまとめるのかといった狭義の意味ではなく、世界をどのように切って見せるかといった広義の視点から編集を捉え、それらをどのような要素で構成し、どのようにデザインするかによって、広く事柄を魅力的に伝えることができるのか、とりわけ「見てわかる」デザイン、すなわちビジュアルコミュニケーション（視覚伝達）を積極的に計画し実装することを、プロトタイピングすることで、何が伝わり何が伝わらなかったのか実証的に学ぶことを目的としている。

【課題の概要】

○通信授業課題「私の博物誌」「私の食文化誌」 A to Z

個人の明確な情報を他者に発信するコミュニケーションを目的として、ここでは紙によるメディアを使って A to Z という編集形式で制作する。A 1 サイズ 1 枚分の紙を、折る・切る・束ねる・連ねる、その他自由な形体を考え、自らの視点で編集し、テーマを受け手にわかりやすく伝え、面白いコミュニケーションツールを考える。

【授業計画】

○通信授業「私の博物誌」「私の食文化誌」 A to Z

- ・教科書を読み前提学習をする。
- ・学習指導書を読み課題を理解する。
- ・企画案を考え事前提出する。
- ・企画案の添削指導に基づいて本制作し提出する。
- ・返送された添削文を読んで理解する。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備 考
「情報形成デザインⅠB」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書
新島実監修『新版 graphic design 視覚伝達デザイン基礎』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書
『情報形成デザインⅢA・ⅣA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	情報形成デザインⅢB						
授業コード	3540	授業科目名	情報形成デザインⅢB			担当者	福井政弘教授、山口弘毅講師、中村孝太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『ページを構成する ― 文字の本』

文字は形に意味が込められているため、視覚的な表現と意味の関係をデザインすることができる。ポスターのように1枚で形成されている媒体であっても、編集という観点は重要であるが、冊子においてはページ構成という立体的な構造をどのように編集企画の中で計画していくのかという、より高度な編集企画が要求される。この授業では、空間的、時間的な構成力を伴うエディトリアルデザインについて学ぶ。

【課題の概要】

○面接課題「文字の本」

文字だけを使い、その形体的・意味的特性を生かしながらページの展開を考える。片ページ（200×200mm）の版型で16ページ（表紙、裏表紙を含む）に綴じた冊子を作る。

【授業計画】

○面接授業（前半2日間）

- ・前提講義
- ・アイデアを考え指導を受ける。
- ・編集デザインの企画を発表する。
- ・コンピュータを使って試作する。

○面接授業（後半2日間）

- ・冊子を完成させる。
- ・講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3～4年次

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

○備 考

「デジタル造形基礎Ⅰ・Ⅱ」「情報形成デザインⅠA、ⅠB、ⅢA」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	情報形成デザインⅣA						
授業コード	3550	授業科目名	情報形成デザインⅣA			担当者	福井政弘教授、杉山衛講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『イメージの考察と作品』
デザインやアートの作品は、デザイナーやアーティストの思想に根ざし、作品として完成している。さまざまな表現が人間の共通感覚に根ざしたイメージを編集することによって成立していると考え、その原理を理解することによって、自らの発想の手がかりにできると考えられる。教科書『新訂 イメージ編集』は、作品を「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「表象」「省略と純化」「変換」の8つのテーマに分類し、背景にある作家の動機や思想を浮き彫りにしようとするものである。その思想に触れ、どのように表現されているかを理解し、自らの発想を論理的に構築しようとするものである。

【課題の概要】

○通信授業課題「イメージの考察と作品」

教科書『新訂 イメージ編集』にある「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「表象」「省略と純化」「変換」の8つのテーマから、3つを選んで、あなた自身がそれぞれの作例に相応しいと思われる作品を、デザイン・美術作品・写真・建築・コミックス・音楽などから選択し、図版と解説を指定されたデザインフォーマットにまとめる。また、8つのうちから1つのテーマを選び、作品を制作する。

【授業計画】

○通信授業「イメージの考察と作品」

- ・教科書を読み事前学習をする。
- ・学習指導書を読み課題を理解する。
- ・課題1を制作する。
- ・課題2を制作する。
- ・課題1、2を提出する。
- ・返送された添削文を読んで理解する。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
「情報形成デザインⅠB」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

- 教科書
白尾隆太郎・杉山衛編著『新訂 イメージ編集』（武蔵野美術大学出版局 2024年）
- 学習指導書
『情報形成デザインⅢA・ⅣA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	情報形成デザインⅣB						
授業コード	3560	授業科目名	情報形成デザインⅣB			担当者	福井政弘教授、山口弘毅講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『私の自分図鑑』

人類は長い文化や知の歴史を紙と文字によって記録し、書籍という形で蓄積して来た。そこには人間の叡智と美学が存在し、編集とデザインというプロセスの中で書籍が刊行されるようになっている。現在では、デザイナーがコンピュータを使って、文章、写真、図版などを総合的に編集し制作できるようになったため、文章や組版、写真や図版についての様々な技量と知識が必要になっている。編集とデザインが融合しながら、文字や写真や図版を総合的に企画しデザインするエディトリアルデザインについて学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題「私の自分図鑑」

自分について記述することを目指し、何をどのように記述するのかについて考え、A4×6ページ相当の紙面にデザインする。文章、写真、図版を企画に沿って準備し、総合的なデザインとして完成させる。

【授業計画】

○面接授業「私の自分図鑑」

- ・前提講義。
- ・企画を考え面談する。
- ・文章、写真、図版を準備する。
- ・コンピュータを使って制作する。
- ・講評。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備 考
「情報形成デザインⅠB」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン V B						
授業コード	3570	授業科目名	情報形成デザイン V B			担当者	清水恒平教授、山田興生講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

データを通して考察できる社会の変化、表現手段、技術的な背景について実習を通じて学びます。

近年データという単語そのものが注目され、メディアではAI、データ分析という言葉を目にしない日はありません。私たちの社会はビジネス、行政、教育、医療、そして表現活動の分野においてもデータを有効に活用するよう変化しつつあります。この授業ではそうした多様なインパクトをもつデータの世界を技術背景、社会的な影響、さらに表現の視点から掘り下げてみたいと思います。

具体的にはデータ分析環境を構築し、インターネット上に公開されたデータを実際に分析・視覚化する実習を通じてデータとその世界への理解を深めます。特に個人の表現方法の一つとしてデータ分析的な視点を持つことを目標とします。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、データビジュアライゼーションの手法と実例について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○メディア授業［リアルタイム］科目

データ分析環境の構築とデータビジュアライゼーション。

【授業計画】

○メディア授業［リアルタイム］

第1日 事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録

第2日 事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録

オンラインプラス[中間]

Slackなどを利用して、インストールした分析環境でのデータビジュアライゼーション、検証、作業記録についてのディスカッションを行う。

第3日 分析環境を用いた制作・ディスカッション。

第4日 分析環境を用いた制作・発表・ディスカッション。

- ・web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
- ・授業の2日前までにWebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングルームURLを送付する。
- ・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
- ・4日間全ての出席が必要。

【成績評価の方法】

制作・プレゼンテーションした分析内容、論理的思考、問題解決能力などを総合的に判断する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

○備 考

- ・LinuxまたはMacのターミナルの基本操作の基礎的な知識があることが望ましい。レベルに応じてクラス分けをする場合もある。
- ・事前準備ができる場合は下記の内容をリサーチして作業しておく和良好的。
 - ・Python の基本操作
 - ・Dockerの基本操作
 - ・pandas によるデータ操作

- ・ matplotlib によるデータ視覚化
- ・ 以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。
 - ・ macOS, Linux, Windows8 以上のいずれかの OS が動作すること。
 - ・ Python などのプログラミングや Web ブラウズが可能な画面サイズとキーボードを備えていること。
- ・ 購入を検討中であれば (MacBook Pro、MacBook Air) を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献

- ・ 『Data Points:Visualization That Means Something』 (Nathan Yau 著 Wiley 2013)
- ・ 『Python によるデータ分析入門 第2版—NumPy、pandas を使ったデータ処理』 (Wes McKinney 著、瀬戸山雅人、小林儀匡、滝口開資 訳 オライリージャパン 2018)
- ・ 『ビューティフルビジュアライゼーション』 (Julie Steele、Noah Iliinsky 編、増井俊之 監訳、牧野聡 訳 オライリージャパン 2011)
- ・ 『ヤバい経済学 [増補改訂版]』 (レヴィット, スティーヴン・D. 著、ダブナー, スティーヴン・J. 著、望月衛 訳 東洋経済新報社 2007)
- ・ 『エンジニアの知的生産術』 (西尾泰和 技術評論社 2018)
- ・ 『新しい Linux の教科書』 (三宅英明 大角祐介 SB クリエイティブ 2015)
- ・ 『スラスラ読める Python ふりがなプログラミング』 (リブローワークス 著、株式会社ビープラウド 監修 インプレス 2018)
- ・ 『退屈なことは Python にやらせよう—ノンプログラマーにもできる自動化処理プログラミング』 (Al Sweigart 著、相川愛三 訳 オライリージャパン 2017)
- ・ Web サイト動画: デビッド・マキャンドレス 「データビジュアライゼーションの美」 <https://bit.ly/2HEERp3>

○メディア授業 [リアルタイム] について: グループワークおよびディスカッションを行う場合がある。

科目名	環境形成デザイン III A						
授業コード	3620	授業科目名	環境形成デザイン III A			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、馬場美次講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

絵画表現による情報伝達

環境形成デザインでは、ヒトとコトの関係を「ヒトとコトとの間に生まれる情報の共有を空間を介したコミュニケーション」という言葉に集約して表している。これは、従来のデザイン行為の枠組みを示すヒト、モノ、コトの関係をより生活実態に則し、社会的視点を加えることによって生まれたキーワードである。

ここで言うコミュニケーションとは、イメージを介した造形による情報共有の方法ということであり、造形が発する造形言語と呼ばれる「言葉」を介した情報伝達のことを言うのである。

環境形成デザインⅢAでは、自分自身の思いや情報を絵画的な手法を用いて、客観的に伝える方法と、その可能性について考察する。

ものづくり、空間づくりを旨とするデザイン領域では、その再現性から図面情報による客観的な情報伝達は、欠くことのできない条件であるが、それにプラスしてデザイナーの思いや考え方を伝えるためのデザインスケッチは、図面情報に劣らない大切な情報となり得る。課題制作を通して、デザインスケッチの精度の向上を図るとともに、デザインスケッチによるコミュニケーションの可能性を研究する。

【課題の概要】

自己体験から生まれる思いを複数のシーンスケッチで構成する。

○通信授業課題1

体験から得られる記憶（旅の思い出、一日の出来事、感動体験など）をもとに、短い物語を作成し、その内容をシーンスケッチを用いて構成する。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』及び、学習指導書『環境形成デザインⅢA・ⅣA』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
3 年次～
- 履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

- 教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021 年）
- 学習指導書
『環境形成デザインⅢA・ⅣA 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

なし

科目名		環境形成デザイン III B					
授業コード	3630	授業科目名	環境形成デザイン III B			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、馬場美次講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

光のデザイン / デザインの振り返り方

光には空気のような体感的な作用があり、影には視覚的な作用がある。光と影、素材と形体という複合的な効果から空間には意味が生まれ、人々の生活を豊かにしたり、空間を演出したりする。環境形成デザインIIIBでは、空間自体やプロダクト、グラフィックなどの対象物を照らす「光」を題材として捉え、課題作成を通じて基本的な光のデザインと思考プロセスを研究する。
 (ここで言う思考プロセスの一部として、作成したものを冷静に分析し、他者との比較や対話を行うことを通じて「いかに振り返るか」についても重点的に取り組む。)

【課題の概要】

一片45cmの立方体の内部空間を題材とし、課題に即した光のテーマ、コンセプトを構想する。実際に立方体の内部空間を照らしながら、「光のデザイン」についてグループワークを通じて研究する。

- ・課題に即した光のテーマ、コンセプトを構想して空間を照らし出す。
- ・グループワークを通じて狙いどおりの光のデザインが出来ているかを理解する。（デザインの自己点検と他者との対話を通じた「振り返り方」を行う。）
- ・学びを通じて課題をアップデートし、新たな提案に結びつける。

【授業計画】

- 前半
- 第 1 日 前提講義・課題説明
 テーマ設定とコンセプトの構想、モデルの作成
- 第 2 日 モデルの作成とグループワーク

- 後半
- 第 3 日 モデルの作成
- 第 4 日 プレゼンテーション準備
 発表、講評、グループワーク

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
3 年次～

- 履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

- ・グループワークあり。
- ・本授業では、主に紙を使用した立体物の作成を行います。模型製作に最低限必要な、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
- ・使用する素材は当日の授業内に学内画材店にて購入する計画です。作成には2000円程度が必要（作成物によって上下する）と理解し、当日の準備をお

願います。

科目名	環境形成デザインⅣA						
授業コード	3640	授業科目名	環境形成デザインⅣA			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、渡来一彦講師、奥村梨枝子講師
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

環境形成デザイン研究1 ―問題抽出と問題解決―

環境形成デザインの学びとは、我々が暮らす生活環境で発生する様々なデザインの課題に対し、何が問題なのか？それは何が原因なのか？それをどう解決すればいいのか？という、問題を抽出する分析的な思考の力と、問題解決に向かう造形的な表現の力を養うことである。そのために用意された科目群が、環境形成デザインⅠA、ⅠBから始まる環境形成デザインの専門科目群である。これは従来のデザイン行為の枠組みを示す「ヒト、モノ、コト」を再編して導き出された「テクノロジー、ライフスタイル、コミュニケーション」という3つのキーワードの持つ意味と意義について総合的に学ぶための科目群であった。

環境形成デザインⅣAでは、今までに学習した科目の内容を総合的に振り返り整理する機会とするとともに、環境形成デザインが目指す領域意識を再確認するための科目である。

あらかじめ用意された課題テーマを立体・空間の各領域からアプローチし、課題テーマと暮らしの関係を見直し、問題抽出、問題解決へと向かうプロセスを、課題制作を通して確固たるものとするために研究を深めることを目的としている。

【課題の概要】

日常生活に潜む問題を自身のものとして選び出し、何が問題なのか？どう改良すればいいのか？自分自身の思いを起点として自分自身とモノと空間の関係を見つめ直し、独自の提案を行う。「モノ」と「空間」どちらかを選択し、提案する。

○通信授業課題1「雨の日もまた楽し」
雨の日をワクワクする日に変える「モノ」や「空間」の提案を行う。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』及び、学習指導書『環境形成デザインⅢA・ⅣA（2024年度）』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○学習指導書
『環境形成デザインⅢA・ⅣA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	環境形成デザイン IV B						
授業コード	3650	授業科目名	環境形成デザイン IV B			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、三澤直也講師、渡辺衆講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

体験のデザイン

過去においては茶道の作法がそうであったように、時間軸を伴った「体験」をデザインすることは今も昔も重要な観点です。例えば宿泊施設で部屋に入るまでのおもてなしや、障子戸を開けることで一望できる風景に出会う体験をするだけで、その旅や宿に対する印象は大きく変わります。逆にリーズナブルなホテルでは、動線設計を合理的に行い、サインシステムやデジタルデバイスを活用しながら、いかにわかりやすく、ストレス無く、快適に時間をすごすることができるかという体験もデザインされるようになってきました。本演習では、こうした「体験」をデザインすることを主題として捉え、本校鷹の台校を題材としたリデザインに取り組みます。

【課題の概要】

鷹の台校の所定の空間を対象とした体験の提案。

- ・鷹の台校のフィールドワークとグループワークをつうじた「体験」の構想。
- ・「体験」を実体化する具体的なアイデアの創出。
- ・提案したい「体験」が伝わるプレゼンテーションの構想。

【授業計画】

前半

- 第 1 日 前提講義・課題説明
- リサーチとグループセッション
- 第 2 日 アイデアの展開、制作
- 中間発表とグループセッション

後半

- 第 1 日 課題制作
- 第 2 日 発表、講評、グループワーク

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
- 3 年次～

- 履修条件
- デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

- ・本課題では「体験」のデザインを主題としています。アプリやサインシステムのようなものも「体験」のデザインと言えるでしょう。広く様々なスキルと知識を持った学生の参画を歓迎します。
- ・本課題を選択する者は、日頃のスクーリング出校時に校内を観察し、他者がどのような振る舞いをしているかを見て考察しておくことを推奨します。
- ・本授業後半で模型の作成を行う場合、模型製作に最低限必要な素材や、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
- ・提案内容やプレゼンテーションの検討にあたり、自らのノートPCを用意できる場合は持ち込み可とします(プリンターは学校のものを使用可能。

Windowsユーザーはデータを移動するためのUSBメモリ (Type-C)を用意ください。

科目名	環境形成デザイン V B						
授業コード	3660	授業科目名	環境形成デザイン V B			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、渡来一彦講師、渡辺衆講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

社会課題のデザイン

「環境」という言葉をスケラブルな視点で捉えると、普段身につけている衣服やハサミのような道具類、生活をしているリビング空間や寝室といった住空間、地域、都市空間といった大きな環境までを想像することができます。さらに、海洋、山岳地帯や、空を見上げるとどこまでも続く空と、その先の宇宙空間までもが相互に作用しあい、私達がすごしている生活「環境」を形成していることに気付くことができるでしょう。一度、こうした視点で環境を捉えると、例えば地球温暖化という社会問題に対しても、団扇や風鈴といった身近な対処法から、打ち水や「避暑地」のような時間空間の過ごし方という解決策、高層建築内の空調の最適化や温暖化ガスを抑制するゴミ処理方法のような大きな施策まで、様々なサイズのデザインの取り組みが模索されていることを想起できるはずです。

本演習では、こうした環境に存在する社会課題を主題と捉え、各自が「デザインできること」を考え、提案に至るプロセスを相互に学びあうことを目標としています。

【課題の概要】

暑さをしのぐー「地球温暖化」をテーマにした提案

【授業計画】

- [面接授業4日間]
 前半
 第 1 日 前提講義・課題説明
 リサーチとグループセッション
 第 2 日 アイデアの展開、制作
 中間発表とグループセッション
- 後半
 第 1 日 課題制作 グループセッション
 第 2 日 課題制作 発表、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
 3 年次～
- 履修条件
 デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

- ・本課題では「社会課題」のデザインに取り組みます。暑さをしのぐサービスや、空間とアプリを組み合わせたような提案の可能性もあるでしょう。広く様々なスキルと知識を持った学生の参画を歓迎します。
- ・本課題を選択する者は、夏季の暑い環境下で他者がどのような振る舞いをしているかを見て考察しておくことを推奨します。
- ・本授業後半で模型の作成を行う場合、模型製作に最低限必要な素材や、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。

・提案内容やプレゼンテーションの検討にあたり、自らのノートPCを用意できる場合は持ち込み可とします(プリンターは学校のものを使用可能。
Windowsユーザーはデータを移動するためのUSBメモリ(Type-C)を用意ください)。

科目名	社会形成デザイン II A						
授業コード	3690	授業科目名	社会形成デザイン II A			担当者	上原幸子教授、河野奈保子講師、山田翔太講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「社会形成デザインII A」ではプロジェクトのデザインについて学ぶ。
人との共通の体験をとおして、考えた企画を動かすために必要な「デザイン」の手応えを得ること、やったことを可視化する「形」を共有すること、そして自分にフィードバックされるプロジェクトデザインの意義を確認することを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 日常生活活性プロジェクト
日常生活活性をきっかけに、仲間や家族とちょっとした工夫を楽しむプロジェクトをデザインする。プロジェクトの企画意図、関わるメンバーの紹介・実行の過程・感想や考察など、やったことを振り返り共有することのできる「プロジェクトの記録」を可視化する。

【授業計画】

日常生活や人間関係をより豊かにするために、身の周りの人たちとできる小さなプロジェクトを企画・実行する

- ・もっと生活を楽しくしたい、ちょっとした喜びを感じたいと思うところからスタート
- ・身近な人と、実際にできることを企画する
- ・プロジェクトの企画と同時に制作物の構成も考える
- ・企画を楽しむためのコミュニケーションツールを制作する
- ・プロジェクトを実行し、記録をとる
- ・やったことを可視化するデザイン構成を考え制作する
- ・プロジェクトをふりかえり、メンバーにプレゼントする

※ 課題に取り掛かる前に教科書を熟読すること。
※ 課題内容については学習指導書『社会形成デザインII A・III A 2024 年度』を必ず参照すること。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書
『社会形成デザインII A・III A 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○参考文献

- ・トーマス・S・マラニー他『リサーチのはじめかた-「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』（筑摩書房 2023）
- ・上原崇仁『コ・デザイン-デザインすることをみんなの手に』（NTT出版 2020年）

科目名	社会形成デザイン II B						
授業コード	3700	授業科目名	社会形成デザイン II B			担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師、藪内新太講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「社会形成デザインⅡB」では、プロジェクトのデザインについて学ぶ。
 デザインを考えるには、対象と目的が明確であることが必須である。具体的な相手と目的を見据えることで漠然とした提案にならず、アイデアを考えることへのモチベーションを高めることにつながる。この授業では、魅力あるプロジェクトを企画立案し、相手に伝わるプレゼンテーションについて考察する。

【課題の概要】

○面接授業課題 「地域を元気にするデザインプロジェクト」

都内の特色あるコミュニティデザインの実践者をゲストに招き、ソーシャルデザインの社会的な意義や役割、地域での必要性、活動の動機や継続していくための工夫などレクチャーを行う。フィールドワークを元に、その魅力の分析を行い、新たな課題の設定とプロジェクトの提案を行う。グループでのディスカッションを元にお互いの企画アイデアを高め、ゲストに対してプロジェクトのプレゼンテーションを行う。

【授業計画】

○面接授業 「三鷹のまちで○○を楽しむ、おもしろがるプロジェクト」

- <前半>

 - ・ゲストティーチャーによる事例紹介
 - ・フィールドワーク
 - ・対象へのリサーチ活動
 - ・グループディスカッション、ワークショップ
 - ・プロジェクトの素案作成
- <後半>

 - ・プロジェクトの具体化
 - ・プレゼンテーションに向けての準備、役割分担
 - ・コンセプトシートの作成
 - ・ゲストティーチャーへのプレゼンテーションとふり返り

※ 受講に際しては『スクーリング持参物』で確認をすること。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

- 備 考
- ・初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎Ⅰ」を先に受講することが望ましい。
 - ・スクーリングではMacintoshを使用する。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献

- ・上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）
- ・山崎義人著・清野隆著・野田満著『はじめてのまちづくり学』（学芸出版社 2021年）
- ・上平崇仁著『コ・デザイン』（NTT出版 2020年）
- ・佐藤郁哉著『フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる』（新曜社 2002年）

○授業では、フィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う。

科目名	社会形成デザインⅢA						
授業コード	3710	授業科目名	社会形成デザインⅢA			担当者	上原幸子教授、角めぐみ講師、江澤勇介講師
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「社会形成デザインⅢA」では、コミュニティデザインについて学ぶ。個人と社会のかかわりをテーマに、地域にコミットするための取材・メディア化について発展的に学ぶ。リサーチを元に眠っている資源を掘り起こし、人と人・人と社会など、さまざまな場面でのインタラクティブなコミュニティデザインの可能性を探る。メディアをコミュニケーションの道具として捉え、企画やテーマが最も生かされる表現手法など、メディアリテラシーの獲得を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題　コミュニティールポ

自分の地域にある自慢したいモノ・コト・ヒトをリサーチし、活動の場に実際に足を運んでのインタビューと取材を行い、その活動を伝えるメディアの提案をする。
誰に対して何を伝えたいのかを明確にすることによって、多様なメディアの形態が考えられる。制作物は取材先にプレゼントし、その報告とともに提出する。

【授業計画】

コミュニティールポ

- ・地域を知る。
所属する地域に改めて目を向け、魅力を感じる対象のリサーチを行う。
- ・自分の中にあるアンテナの再確認を行う。
選択という行為をとおして、自分の興味・関心・モチベーションの在処を探る。
- ・取材をする。
自ら足を運んで取材者という立場で、見て聞いて体験した第一次情報を記録する。
- ・地域の活動を紹介する編集企画を考えメディアを制作する。
ビジュアルコミュニケーションの力を役立てる。

中間指導を受ける（郵送提出）

- ・制作物を提出し、教員からのアドバイスを受ける。

取材先への報告レポート（web提出）

- ・アドバイスを元に完成させ、制作物と共に取材先に報告する。

※ 課題に取り掛かる前に教科書を熟読すること。
※ 課題内容については学習指導書『社会形成デザインⅡA・ⅢA 2024 年度』を必ず参照すること。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること

【教材等】

○教科書
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書

『社会形成デザインⅡA・ⅢA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○参考図書

- ・山崎亮著『コミュニティデザイン - 人がつながるしくみをつくる』（学芸出版社 2011年）
- ・渡邊淳司、ドミニク・チェン著『ウェルビーイングのつくりかたー「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド』（ビー・エヌ・エヌ新社 2023年）

科目名		社会形成デザイン III B					
授業コード	3720	授業科目名	社会形成デザイン III B			担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師、角めぐみ講師、稲見理講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「社会形成デザインⅢB」では、コミュニティデザインについて学ぶ。
アートとデザインには、まちや人を元気にする力がある。地域の資源を生かしながら、地域社会に於けるアートとデザインの活躍の場を広げていくことを目的に、生きた学び合いの場を創出する。美術大学での学びを活かし、私たちに何ができるかを共に考え、改めて問い直してみる機会としたい。

【課題の概要】

○面接授業課題 「コミュニティデザインセミナー」

校友会との連携により、コミュニティデザインに携わっている卒業生をゲストに迎え、グループで授業内オンラインセミナーイベントを企画・開催する。学び合う場づくりをとおして、合意形成のためのコミュニケーションデザイン、プロセスのデザイン、空間のデザイン、広報のデザイン、プロデュースなど、トークイベントの企画運営に必要な複合的要素を学ぶ。

【授業計画】

○面接授業

- （前半）
- ・ゲストティーチャーによるレクチャー
 - ・コミュニティデザインセミナーの企画を考える
 - ・広報制作

- （後半）
- ・紹介動画の作成
 - ・オンラインセミナーの企画開催
 - ・まとめと記録制作

※ 受講に際しては『スクーリング持参物』で確認をすること。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

- 備 考
- ・初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デザイン造形基礎Ⅰ」を先に受講することが望ましい。
 - ・スクーリングではMacintoshを使用する。
 - ・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上で資料のURLを掲載する。授業前に資料を確認し、ゲストについてリサーチしておくこと。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献

- ・上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）
- ・渡邊淳司、ドミニク・チェン著『ウェルビーイングのつくりかた-「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド-』（ビー・エヌ・エヌ新社 2023年）

○授業では、グループディスカッションを行う。